

市制8年のあゆみ = 美濃加茂市沿革史 = (昭和29年4月～昭和37年3月)

美濃加茂市の沿革

飛騨、木曾川の合流する近くに古蹟石器時代が現われるが古書に現われ始めたのは開化天皇の朝に「三野前田」と呼ばれ、成務天皇の折「三野後田」となり、続いてその一部の平地が加茂郡となり、県主に開化天皇の皇子日子座主の子孫が当たったことが姓氏録にみられるが、太田町に式内郡社主神社に県主の祖神として奉祀されている。

大化の改新により加茂郡を置、加茂郡と呼び、この地方の文化の中心で時代の変遷とともに東山道の要衝として発展した。中世、奈良朝より武家南北が後白河院御領とし、郷には保に地頭、代官がおかれた。

戦国時代には承久三年、後白河上木曾川時にむかえ撃つた。豊臣氏の海内統一するや荘園を廃し郡、村となりこの時以来太田を始め現存する各地の地名が発生した。近世、江戸時代に一部尾州領となり、始め郡奉行をして治め元明二年四月、代官所を設け東濃民衆の中心となり、本陣宿場として関西諸大名の参勤交代、和宮の関東下向、武田勝頼の上洛給儀の東征等に重要な駅家として多数の往来があり、又一國政治の中心として多彩な歴史の頁をいろうつた。

幕府大政を奉還するとともに笠松県となり続いて明治四年七月廃藩置縣により、名古屋、今尾、笠松に分管されたが同年十一月岐阜県となり郡制を復活し、加茂郡役所が置かれ郡の中心となつた。(写真 太田の渡し)



里の官軍は西下する甲信五万の軍をり平安朝初期には美濃国賀茂郡神田時代に至り、荘園の発達に伴い蜂屋太田郷、鷹栖郷が見られる。荘園郷

昭和29年 (1954)

- 4月1日 理想的地方自治確立のため市制を施行加茂郡太田町、古井町、山之上村、蜂屋村、加茂野村、伊深村、三和村、下米田村及び和知村牧野が合併。
- 25日 初の市長選挙が行われ、渡辺栄一氏が無投票当選。
- 5月5日 端午の佳日、市制施行祝賀挙行。
- 6月1日 母子寮附設保育所及び古井第一保育所が開設。
- 8月3日 市消防署庁舎が落成。
- 8月14日 木曾川渓谷「日本ライン」県立公園指定。
- 10月23日 加茂野小学校々舎と屋内体操場が落成。
- 11月1日 加茂野保育所を開設。



市制祝賀式

昭和30年 (1955)

- 1月14日 山之上バス開通。蜂屋～加茂野、太田～三和線が延長。
- 16日 国道21号線消防署前～太田小及び神明堂～太田橋間舗装完成
- 3月25日 初の市議会議員選挙が小選挙区制により行われ、立候補者49名中より30名が当選。
- 4月1日 牧野公民館完成、蜂屋保育所開設。
- 5月24日 三和小学校々舎完成、木造瓦葺二階建306坪。
- 7月26日 北中学校々舎完成、木造瓦葺二階建343坪。
- 8月15日 中小企業融資保証事業開始。
- 9月10日 鉄筋コンクリート三階建 431坪の 偉容を誇る山之上小学校々舎が完成。
- 10月10日 美濃加茂市を始め、中濃三市・四郡「集約農地」に指定された。



北中学校

昭和31年 (1956)

- 1月14日 伊深保育所が開設。
- 3月31日 国道21号線太田小学校前～深田橋間舗装完成。伊深橋水道第二期工事の水源地竣工。
- 6月15日 下米田保育所完成。
- 7月2日 市産業観光会館木造瓦葺二階建 141坪が木曾川畔に完成。
- 8月15日 美濃加茂市第一地域(太田、古井、加茂野、下米田)が新農村建設地域に指定を受けた。
- 10月8日 八消防団を統合改編し、市消防団を結成し十分団に改編。
- 14日 加茂野産農協により前平の家畜市場が完成。
- 12月28日 下米田西脇方面バス開通。



山之上小学校

昭和32年 (1957)

- 2月1日 高松宮殿下太田小学校御視察になり坪内通達誕生の地に記念植樹を賜わった。
- 3月16日 太田中屋内体操場完成、近代的な工法は建築界の注目を浴びている。
- 20日 伊深橋水道第二期工事が完成し、伊深町全地域に給水が実現
- 27日 市上水道建設事業着手。
- 4月9日 天皇、皇后両陛下には全国緑化大会に御出席のため行幸され、途中美濃太田駅御通過の際渡辺市長等地元奉迎者に御会釈賜った。
- 5月1日 三和保育所が開設。
- 4日 神田厚生大臣……上水道視察
- 8日 太田一原視一福道方面バスが開通しこれにより市内バス網の整備を終る。
- 10日 古井公民館(131坪)及び郷土館(34坪)が完成。
- 6月30日 市内8農業委員会(138名)を統合し26名の委員が無投票により当選決定した。
- 7月19日 皇太子殿下は「日本ライン下り」のため、本市に行啓になり午前10時50分御車にてライン公園に御到着産業観光会館において御少憩ののち、ライン公園乗船場にて、武藤県知事、松野県会議長、渡辺市長等と御乗船になり、渡辺市長の御説明を受けて天下の景勝ライン渓谷に御清遊になった。
- 8月1日 新市町村建設促進法に基く「モデル新市」として指定を受けた。



三和小学校



家畜センター

昭和29年美濃加茂市誕生以来満8年間、第一次建設計画の完遂について市勢伸張第2段階としての重大建設事業が相次いで完成し、市民福祉の増進と市の一体性を確立し新都市として躍進していることは一つに市民一歩協力の賜であります。

この8年間の成果のうえに立つてさらに木曾川を中心とした広域産業開発と産業振興を計り豊かな市民生活の実現を期する市政第3段階を迎えようとしております。この機会に市制8年間、渡辺市長のもとに3万市民が築きあげた成果などをアルバムに特集、今後の道程にいたします。



して指定を受けた。

- 11日 美濃加茂電報電話局が完成し、自動式になると合併し三和、伊深を除いて市内電話となる。
- 16日 大野副総裁就任祝賀式に参事。
- 30日 県家畜センターが前平地に完成。
- 10月2日 三笠宮殿下正眼短期大学記念式典御参列のため市制施行三周年記念式典並びに市民運動会が前平
- 13日 われ、合併並に市政功労者に感謝状が送られた
- 11月13日 東京都体育館における地方自治施行十周年記念式設の成果を讃えられ自治市長官の表彰を受けた。
- 12月4日 加茂野電報局が総工費2億5千万円にて完成し、始した。

昭和33年 (1958)

- 2月27日 加茂野、三和線のバスが甘屋まで開通。
- 3月20日 渡辺市長三万市民の御望を担い無投票再任。
- 4月10日 山之上保育所竣工、入所式、これで全市に保育所
- 24日 蜂屋小屋内体操場竣工、これをもって各町の教育
- 5月1日 市の行政機構が改善され、市民のサービス部門の設置、市民相談室が開設された各地区の出張
- 5日 母子寮が不慮の災害にて全焼。
- 15日 上水道起工式水源地にて挙行。
- 7月28日 小山バス開通。
- 8月29日 岸総裁、大野副総裁来市。
- 9月1日 待望の上水道(3,100戸、15,500人に給水し、一日水を開始。
- 6日 国道21号線蒲原一岐線間の加茂川橋が総工費60X
- 13日 えに着工。
- 26日 三浦農林大臣農政懇談会に参事。
- 10月19日 国道名古屋一富山間の一級国道昇格が閣議で正式より一級国道41号線となることになった。
- 27日 第二回市民運動会が前平グラウンドにて盛大に開催
- 天皇、皇后両陛下富山県の国民体育大会御臨席後になり、古井町、太田町にて御奉迎申し上げた。
- 11月11日 5月5日全焼した母子寮及び附設保育所が再建し
- 12月21日 電話が岐阜一美濃加茂自動即時通話となる。

昭和34年 (1959)

- 1月1日 加茂野駅前公民館落成。19日山之上農事センタで昭和31年度より3年間に亘つて新農村建設地1,690万円余にて果樹園灌漑、共同防除施設、有事業が全部完成した。
- 1月18日 飛騨、木曾川国定公園指定促進期成同盟会が本
- 26日 れ、会長に渡辺美濃加茂市長を選任し日本ライン公園を国定公園に指定を受けるよう運動することに
- 3月29日 市議会議員選挙が小選挙区により行われた。立候補者49名、その内訳は自民党23名、社会党1名、無所属
- 31日 モデル新市建設事業の昭和33年度事業は、野地原円にて殆どの工事が竣工した。
- 4月1日 国民健康保険市全域実施。
- 6月26日 野呂県議定例県議
- 8月26日 会において木曾川右岸総合開発を主体とする水資源確保について発言。
- 9月10日 台風第7号の影響による川瀬川筋に集中豪雨を受け、橋梁の流失等5億円余の被害。
- 26日 渡辺市長、全国市長会を代表して参議院地方行政促進法の期限延長を陳述。
- 27日 史上空前の伊勢湾台風により、21時30分より45m、気圧954ミリバールの暴風雨圏内に入つて災害救助法発動。死者6名、全壊住家194、半壊120億円余。
- 10月20日 上水道配水池古井町愛宕山に竣工(1,200トン)
- 25日 伊勢湾台風による仮設住宅71戸、県下のトブを伊勢湾台風については激じんの指定等により公に投入した額は1億2千8百万円余のほり、公共費円。市単独復興資金を初めとする融資は835件9.1は市見舞金を始め日赤等義捐金総計8百万円余義



昭和35年 (1960)

- 1月6日 加茂農林高校地鎮祭。
- 2月1日 古井、山之上、下米田中学校を統合する東中学校
- 3月7日 木曾川右岸総合開発調査に農林省189万円、県35
- 10日 初の名誉市民に本市出身の歴史学の権威者で、文右吉博士を推挙。
- 15日 市重要文化財に瑞穂免類師如来外7点初の指定
- 4月1日 13米道路本日より2級国道蒲原一岐線に編入
- 5月6日 新庁舎地鎮祭。設計溝口建築、工事請負清水建設